

GREE株式会社
東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー
<http://corp.gree.net/jp/ja/csr/>

2018年9月発行

OUR ACTIONS

CSR Report

VOL.5

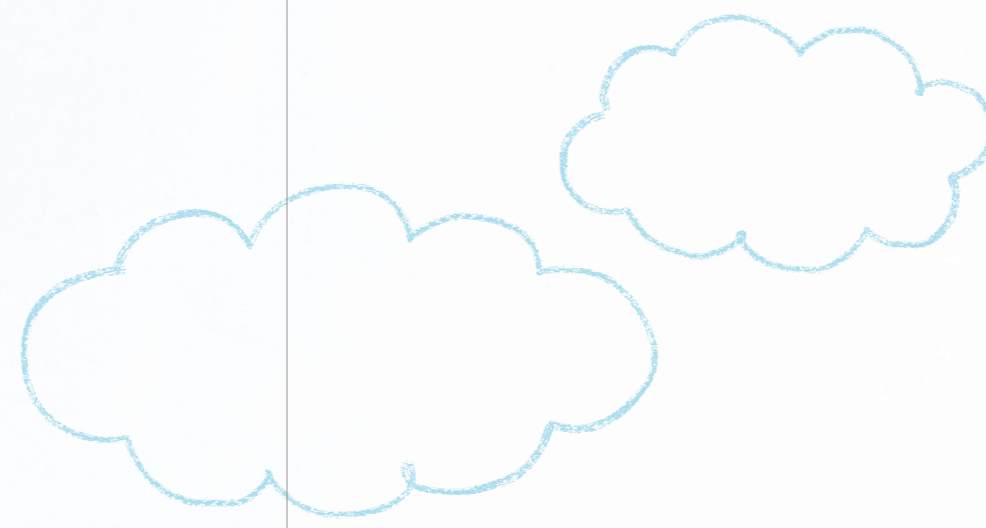


 GREE

グリーができること。

「インターネットを通じて、世界をより良くする。」というミッションを実現するために、グリーは、サービスを提供する立場として、それらを使うあらゆる世代の方の安全をしっかりと見守る責任があると考えています。

これからもお客さまが安心してサービスを楽しめる環境づくりを目指して、グリーは、活動を続けていきます。



- Action 01 企業市民として社会の発展に貢献
障がい者が活躍できる会社づくりを目指して > P.04
- Action 02 安心安全なインターネット社会の構築
誰もが安心できるネット社会を目指す
～企業が学ぶ情報モラル～ > P.06
- 特別対談 継続が社会貢献につながる > P.08
- Action 03 インターネット産業の強化と発展
千葉大学の授業を共同プロデュース > P.10

障がい者が活躍できる会社づくりを目指して



グリービジネスオペレーションズ 代表取締役社長 福田 智史



グリービジネスオペレーションズは6周年を迎えました

初めに、グリービジネスオペレーションズ（以下 GBO）の社員、グリーグループ各社、GBO を支えてくださる横浜市、労働局、ハローワーク、各就労支援機関の皆さま、いつも本当にありがとうございます。

私が代表に就任した 2013 年、グリーは業績が低迷し厳しい状況でした。だからこそ GBO を単なる障がい者雇用の会社ではなく、戦力として貢献できる組織にしたいと。 「能力を最大限発揮でき、仕事を通じ自律的に成長し続けられる会社を創る」というコーポレートビジョンは障がい者雇用を意識したものではありません。会社は本来そうあるべきです。少子高齢化が進み、社会が多様な人材活用を模索し始めた時期でもあり、政府が掲げる「一億総活躍社会の実現」も意識し始めました。ですが私には未知の分野。書籍を読み、障がい者雇用に関心のある会社を訪問。「あの、ちょっと…」という突撃も含め 30 社は回ったと思います。「障害者職業生活相談員」の認定資格も取り、面談による社員のスキル把握も進めました。皆が能力を発揮できるよう、仮眠室・イヤーマフなど物理的な環境や、柔軟な有休制度・皆勤賞制度も用意。ここまではスムーズでしたが、最初の壁は… 「仕事がない!」。でも私はグリーの事業側にいた人間（現在も GBO と事業を兼務）でした

グリービジネスオペレーションズ（GBO）とは

2012年5月1日にグリーグループの障がい者雇用を推進するために設立されたグリー株式会社の100%出資の特例子会社。「障がい者が自身の能力を最大限に発揮でき、仕事を通じて自律的に成長し続けられる会社を創る」をコーポレートビジョンに掲げ事業活動を行う。

から、グリーグループ内に日常的にどんな業務があるかを把握していました。だから「この仕事は GBO にぜひ!」とすぐに業務の切り出しに着手できたのです。これが成長のきっかけでした。同時に GBO をもっと知ってもらわなければ、社内や社員の様子を SNS で積極的に発信しました。その結果、自然と業務の相談は増え「仕事がない」という悩みは解消されました。その次は業務をどう拡大するか。グリーの主力事業であるゲーム制作の最終工程にある QA（品質保証）業務に活路を見いだしました。グループ内で完結できれば情報管理も容易で、外部に委託するよりコストも下がる、ゲーム制作側にも十分メリットがあると思い打診したところ「いいね、やってみよう!」と快諾してくれました。グリー本社の QA 担当者が、毎週、GBO での実務研修をしてくれたんですが、GBO 社員の理解のために「障害者職業生活相談員」の認定資格を取ってくれたんです。こういった本社と GBO、双方の努力があり業務を拡大できました。

これ以降、グループ内に「GBO にアウトソースする」という選択肢が定着し、今では受注し切れないほどの業務相談を頂いています。うちの社員は本当にグリーが好きなんです。自分が業務で関わったゲームがテレビ CM に出たり、やりとりをしていたグリーの担当者が社内表彰されると、本当に喜んでます。うちの社員はその障がい特性によって人一倍の苦勞をし、GBO でようやく 1 年、2 年と継続して働けるようになった人も多く、自分が必要とされ、自信を持てるきっかけとなったグリーでの仕事に愛着があるんです。

そんな社員との個人面談は就任時からずっと続けています。皆成長意欲が高く、数カ月でもどんどんできる仕事が増えていきます。その変化を把握し「この業務もやれそうかな?」というアサインの判断につなげています。成長



に気付き、能力を最大限引き出すのは経営者の責任ですから。同時に体調や精神面のケアもします。とにかく個人面談は重要なんです。特例子会社であっても、収益を上げ続けることが存続の大前提です。障がい者の人材活用は、経済価値の創出と社会課題の解決を両立させることができる企業の取り組みであり、CSR の先進事例にしていきたい。実際に成果を出し、その過程やノウハウをできる限り社外に発信することで、日本社会全体を変えていく活動も必要だと思っています。社外の方とお話すると、GBO がいかにグリーグループ全体の理解に支えられているか実感します。仕事の能力を評価していただいているということもありますが、障がい者も健常者も一体となって「インターネットを通じて、世界をより良くする。」ために仕事をしています。これが、GBO の社員が大好きなグリーなんですよ。

神奈川県労働局長コメント

神奈川県労働局長
三浦宏二様



このたびは創立 6 周年おめでとうございます。個々の障がい特性に配慮した職場環境の整備や最適な業務アサインなど、他企業にとって大変良いモデルとなられているかと思えます。貴社の今までのご功績に敬意を表すとともに、今後のさらなるご繁栄をお祈りいたします。

誰もが安心できるネット社会を目指す ～ 企業が学ぶ情報モラル～



バンダイホビーセンターでの講演



グリーは、2012年から「ネットリテラシー」をテーマとする啓発講演「正しく怖がるインターネット ～事例に学ぶ情報モラル～」を全国で実施しています。私たちは、インターネットを利用したサービス・コンテンツを提供する事業者として、事業の中で得られた知見や知識を社会に還元し、全ての方々に安心してインターネットを利用していただけるよう取り組み義務があると考えています。その一環として、各地の学校や企業、公的機関などで、子どもから大人まで幅広い方々を対象に講演を行っています。

「インターネットでは、なぜ短時間で個人を特定されてしまうのか」「ネット上での情報拡散の仕組み」――。2018年6月、静岡県にある株式会社BANDAI SPIRITS

バンダイホビーセンターで働く社員の皆さんに向けて行った講演では、ネット炎上の仕組み、そしてそれがもたらす人生への悪影響について、実例を交えてお話ししました。

グリーが啓発講演を始めた当初からお伝えし続けている「インターネットは玄関の外側」というフレーズは、「インターネットは現実世界の延長線上にあり、ネットと現実は何ら変わらない」ということを伝えるための言葉です。玄関の外側に貼り出せない内容はネットにも貼り出せないし、書けない。実は日常もインターネットも、守らなければいけないルールやマナーは同じである、ということを分かりやすく表すフレーズです。皆さんにインターネットの「正しい怖がり方」をお伝えし、

誰もがネットを単なる道具として使いこなせる世界を目指しながら、グリーはこれからも多くの方にメッセージを伝え続けていきます。

講演を受けて

株式会社バンダイ
プロダクトマネジメント部
品質マネジメントチーム
アシスタントマネージャー
岩村 剛さん



今回の講演に参加して、インターネットの素晴らしさとリスクを同時に知ることができました。企業としてインターネットを通じたお客さまへの情報発信も多く、コンプライアンスも当然求められますが、ネットに情報を掲載する上での判断基準が明確になりました。また「投稿前には情報を受け取る側の気持ちを考えて投稿する」という基本を、改めて考え直す良い機会となりました。

講師紹介



**小木曾 健
(おぎぞ けん)**

グリー株式会社
社会貢献チームマネージャー
「ネットモラルエバンジェリスト」

グリーがサービス内に対して実施しているパトロールの責任者を経た後、インターネットの安心・安全な使い方を啓発していく部門の責任者として、日本全国での無料出張講演実施、情報モラル教材の作成などを担当。著書に「11歳からの正しく怖がるインターネット」(晶文社)、「大人を黙らせるインターネットの歩き方」(筑摩書房)、「開始1分で聴き手を裏切る一流のプレゼン術」(impress QuickBooks)がある。

その他啓発活動



←動画はここらから
ご覧いただけます。

保護者向け啓発動画をリリース

グリーが行っている啓発講演は、子どもから大人まで幅広い方々が対象となりますが、学校での講演になかなか参加できない忙しい保護者の方も多くいらっしゃいます。そんな方々に向け、2018年5月、動画コンテンツ「ティルと学ぶ 正しく怖がるインターネット」をリリースしました。インフルエンサー犬の「ティル」ちゃんを生徒役とし、ネットやSNSで「絶対に失敗しない方法」をグリーの社員から学ぶ3部構成のストーリーになっています。動画は5分～18分で制作されており、短時間で情報モラルを学べるよう工夫されています。



社員とご家族に向けた啓発活動

グリーでは、年に1度、社員のご家族を本社にご招待し、日頃の感謝をお伝えする「グリーファミリーデー」を開催しています。2018年7月のファミリーデーでは「もうすぐお子さんがスマホを持ち始める」という保護者の方々に、講演を実施しました。

常にチャリティーに帰結する

田中 企業がCSR活動を行う時には、必ず「なぜそれをやるのか」という活動の方針があると思います。グリーはインターネットが事業ドメインですが、どんな企業活動もマイナスの側面が生まれることがあります。私たちは、それに対してもきちんと責任を持ちたいと考え、CSR活動を行っています。

小杉 日本テレビのCSRと言えば、やはり「24時間テレビ」です。今年で41回の放送となりましたが、昨年までの累計の募金総額は370億円を超えています。頂いた募金は、福祉や自然環境保護、災害援助などに使われていて、その中には、高齢者に対する支援や障がいを持つ人への支援も含まれています。

田中 「24時間テレビ」を始めたきっかけ、続けている理由に、日本テレビさんのCSR方針がありそうですね。

小杉 CSRは、企業がビジネス抜きで「社会とどう接点を持つか」「どう関わるか」だと思っています。CSRにはさまざまな考え方や流儀がありますから、「24時間テレビ」に対しても、いろいろなお意見や、時にはご批判もあります。それでも私は「やらないより、やった方が絶対いい！」なんです。普段、チャリティーやボランティア活動に関わっていない方が、放送をきっかけに、募金してみようと思ったり、興味を持つきっかけになるだけでも、意味があります。だからCSRは「誰でも参加できる」ということも重要なんです。

田中 確かに。私が初めて「チャリティー」という言葉を知ったのは、「24時間テレビ」がきっかけだったかもしれません。

小杉 社会的に弱い立場にいる人たちに、より多くの善意を届ける。そのためには、たくさんの方々に見ていただく必要がありますから、番組内容はエンターテインメント



色も強くしています。その結果、たくさんの募金を頂き、必要とする方々にもお届けできるのです。

田中 「24時間テレビ」では、特に障がい者やチャリティーにフォーカスされていますよね。グリーも「グリービジネスオペレーションズ」という特例子会社を2012年に立ち上げ、今年で6周年を迎えました。横浜のオフィスでは、50人ほどの精神・発達障がいを持ったスタッフが、ゲームのバグチェックやバナー制作などといった、自身の得意な分野でグリーに貢献してくれています。

小杉 日本テレビでは、LGBTの映画祭

番組や、番組と連動したボランティア募集プロジェクト「すけっと」などもCSRの位置付けになります。いずれも社員が自発的に始めたものです。CSRにも、それに対するさまざまな意見、反響がありますから、我々が社会にどう映っているのかをちゃんと見定めた上で、「私たちはこういう考えです」というものをしっかり持つことも大切ですね。

田中 マスメディアの場合、自分たちで発信できる強力なツールがある。企業の特徴を生かしたCSRですね。グリーもゲーム事業の他に、メディア事業もしているので、メディア企業としてもしっかり成長して、社会に対する責任を果たせるように成長していきたいと考えています。

小杉 発信力を持つ立場である以上、しっかりと世の中に貢献しなければなりません。同時に、発信力だけではなく、世の中を確実に「巻き込んでいく」。これはCSRにおいてとても重要なポイントです。

自分たちの都合でやめてはいけない

田中 インターネット業界は目まぐるしく変化しているので、今後、私たちの事業内容やサービスをお届けする対象、お客様も変わってくる可能性があります。そうなると、私たちのCSR活動の内容も変わるかもしれません。ですが私たちのCSRに対する考え方、企業市民としての責任を果たしていきたい、という考えに変わりはありませんから、変化しながら活動を続けるつもりです。

小杉 CSRは継続することが大切です。 「24時間テレビ」は今後ずっと続くものだと思います。例えばお風呂付きの福祉車両は、水回り設備を備えているので、老朽化も考慮しなければいけません。買い替える必要も出てくるんです。その他、ごみの撤去や伝統職人の支援など、継続しなければいけないものがたくさんあります。「24時間テレビ」が終了すると、

福祉の補給経路を絶つことになるんです。一度始めたことは、我々の都合で簡単にやめてはいけない。形は変わるかもしれませんが、変化し続けながら、それでもよほどのことがない限りやめられないでしょう。

田中 本日は貴重なお時間をありがとうございました。伺ったお話を参考に、今後も事業、CSRに取り組んでいきたいと思っています。

小杉 私たちは、世の中に「豊かな時間」を提供するための企業ですが、グリーさんもこの点は一緒ですね。一人ひとりのユーザーに向けて、豊かな時間を提供する企業として、今後も発展していただきたいと思っています。



特別対談

継続が 社会貢献につながる

毎年8月の風物詩ともいえる日本テレビの「24時間テレビ」。社会に向け、チャリティーへ参加するきっかけを提供しています。今回は日本テレビ本社にお伺いし、副社長・小杉氏よりその活動に込められた思いを伺いました。

グリー株式会社
代表取締役会長兼社長

田中 良和
YOSHIKAZU TANAKA

日本テレビ放送網株式会社
取締役 副社長執行役員

小杉 善信
YOSHINOBU KOSUGI



小杉 善信

1954年生まれ。76年日本テレビ入社。制作部門を起点に、編成・営業・グループ会社社長を経て、2018年6月から日本テレビホールディングス取締役副社長、日本テレビ放送網取締役副社長執行役員に就任。

千葉大学の授業を共同プロデュース

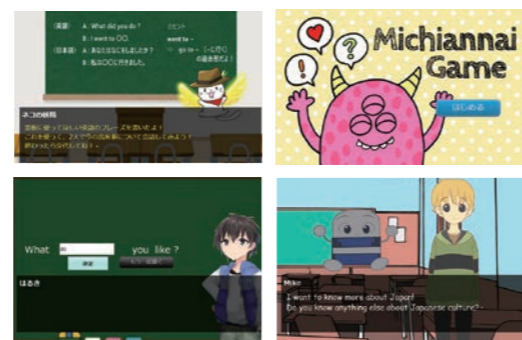


千葉大学教育学部附属小学校にて

グリーは、主力事業である「ゲーム」の可能性を生かした社会貢献の取り組みとして、千葉大学藤川大祐教授と共同で、同大教育学部の授業をプロデュースしています。この授業は、ゲームの力を応用した教育（ゲーミフィケーション）を体験し、その知識を生かせる人材の育成を目的に、2013年より毎年実施されています。

2017年は、学生自らが「ノベルゲーム」と呼ばれるジャンルのゲームを企画・制作し、同ゲームを用いた英語学習授業を実施しました。グリーは、製品企画の考え方や、技術的なサポートを行いながら、将来教員を目指す学生たちと一緒に授業づくりを進めました。

学習ゲームの内容



「アクティブラーニングの授業を補助する英語学習ゲーム」をテーマとして、ツアープランナーや道案内をしながら日常英語を学べるものや、YouTuberやお正月といった流行りや季節感を取り入れた学習ゲームを学生たちが制作しました。

グリーが考える3つのこと。

グリーは、より良く社会に貢献できる姿を追い求める中で、3つの柱を設けています。「インターネットを通じて、世界をより良くする。」という企業理念の下、CSR活動を通じて、利益を社会全体に還元し社会との関わりを大切にしながら、社会の健全な持続的発展のための活動を続けていきます。

